

＜中学校 社会＞

自ら学び、自ら考える力を育てる社会科学習指導の工夫

—適切な課題を設けて行う学習と自己評価能力の育成を通して—

豊見城市立長嶺中学校教諭 松 下 啓 子

内容要約

自ら学び、自ら考える力を育てる社会科学習の工夫をするために、適切な課題を設けて行う学習と評価の工夫による自己評価能力の育成を試みた。

適切な課題を設けて行う学習として、身近な地域の調べ学習を学習の手引きを活用して展開していく。また、教師からの評価情報の提供、自己評価、相互評価、ポートフォリオ評価を行うことによって自己評価能力を育成し、自ら学び、自ら考える力を高めることができた。

【キーワード】 学習の手引き 自己評価 相互評価 ポートフォリオ評価

目 次

I	テーマ設定の理由	41
II	研究内容	41
1	自ら学び、自ら考える力について	41
2	適切な課題を設けて行う学習について	42
3	自己評価能力の育成について	44
III	授業実践	46
1	単元名	46
2	単元について	46
3	単元の観点別目標	46
4	単元の指導計画と評価計画	47
5	本時の学習	48
6	検証授業の考察	48
IV	研究の考察	49
V	研究の成果と今後の課題	50
1	研究の成果	50
2	今後の課題	50

<中学校 社会>

自ら学び、自ら考える力を育てる社会科学習指導の工夫

—適切な課題を設けて行う学習と自己評価能力の育成を通して—

豊見城市立長嶺中学校教諭 松 下 啓 子

I テーマ設定の理由

本県の平成16年度学力向上主要施策「夢・にぬふあ星プラン」は、「生きる力」の知的側面として、いかに社会が変化しようと、生徒自身が課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力（自ら学び、自ら考える力＝確かな学力）であると述べている。「自ら学び、自ら考える力」を育てるために、中学校学習指導要領の社会編では「学び方を学ぶ学習の充実」を重視している。具体的には事例を通して課題を追究、考察する学習などを展開し、その学習の過程において調べ方や学び方、見方や考え方を学び、身に付けることができるよう工夫することが大切である。

これまでの授業の反省として、高校入試への影響を考えるあまり、ややもすると教師主導の一方的な授業に陥りがちであった。このような課題を解決するために単元の導入などを工夫して、興味・関心を引き出す努力をしてきたが、授業の計画が不十分であったため、生徒の自主性を伸ばし、自ら学び、自ら考える力を育てることがうまくできなかった。

以上のような授業の反省から、学習の手引きの活用、適切な課題を設けて行う学習を取り入れ、課題を設定、追究、まとめ、発表する学習の過程で、生徒に学ぶ力を身に付けさせたい。また、評価の工夫をすることで自己評価能力を育てていきたい。具体的には、教師からの評価についての情報提供、自己評価、相互評価やポートフォリオ評価を活用し、生徒が自ら学習のめあて、方向を意識し、自らの学習成果を振り返るようにさせることで自己評価能力をはぐくんでいきたい。このような方法を日頃の学習活動で継続して行うことで、「自ら学び、自ら考える力」を育てていけると考え、本テーマを設定した。

<研究仮説>

- 1 適切な課題を設けて行う学習を取り入れ、その学習過程において、課題の設定したた、追究、整理、発表のしかたを身に付けさせることで、「自ら学び、自ら考える力」を育てることができるだろう。
- 2 教師からの評価情報の提供や自己評価、相互評価、ポートフォリオ評価を活用することで自己評価能力が養われ、「自ら学び、自ら考える力」を育てることができるだろう。

II 研究内容

1 自ら学び、自ら考える力について

生涯にわたって学び続ける能力や態度の基礎を養うことが学校教育への今日的要請となっている。これまでの社会科の学習は、ややもすると学習の過程よりも結果を重視し、事実認識の結果を覚える学習になる傾向がみられた。

しかし、社会の変化の激しい時代にあっては、常に社会の変化に関心をもち、変化する社会を身近な問題として正確に捉えていくことが大事である。そのためには、社会の変化の軌跡をとらえる基礎的知識や現代社会のしくみ、制度などに関する基本的な考え方を身に付けるとともに、事実認識の方法を身に付けること、すなわち学び方を学ぶ学習が重要となる。

「自ら学び、自ら考える」の「自ら」とは、文字どおり「生徒一人一人が自分の意志で」という意味で、学習への目的意識と方向性をもって主体的に取り組む姿である。しかし、生徒の主体性を尊重するということは、生徒の言いなりになって生徒任せにするということではない。「自ら学び、自ら考える力」

を付けるということは、その力が身に付くように教師が適切に指導、支援することである。

「自ら学ぶ」生徒を育てるポイントとして、次のことがあげられる。

- ① 自分は何について学習しようとしているのか、学習の目的や課題をきちんと意識させる。
- ② 自分はどのような課題をどのような方法で取り組むのか、その見通しをもたせる。
- ③ 自分なりの学ぶ方法や能力を発揮しながら、できるだけ自力で課題に取り組ませる。

次に「自ら考える」生徒を育てるポイントとして、次のことがあげられる。

- ① 学習のめあてを自分の課題として受け止めさせることで、「なぜかな?」という思考を働かせる。
- ② 自分の考えを発表させ、教師や周りの生徒に認められ、修正されることで考え方を深めさせる。

以上のことに基に、適切な課題を設けて行う学習で、生徒に学習の目的や課題を意識させ、見通しをもって取り組ませ、調べたことを発表させる。この学習活動をくり返し行うことで、「自ら学び、自ら考える力」が育っていく。

2 適切な課題を設けて行う学習について

適切な課題を設けて行う学習は、生徒の主体的な学習への取り組みを重視した学習内容や学習の工夫を教師に求めている。以下に、適切な課題を設けて行う学習の進め方について述べていきたい。

(1) 学習の手引きの活用について

調べ学習のためのスキルとしてまとめた「学習の手引き」を作成して配布し、全体で確認していく。

学習の手引きは、学習の仕方を身に付けるための手引きであるので、生徒が必要なときに自分で読み返して確認し、見通しを立てて学習することができる。

調べ学習の手引き																											
<p>ステップ1 テーマを決めよう！</p> <p>○ きみが疑問に思っていることや、関心のあるテーマはなにかな？ それが調べ学習のテーマにピッタリか、次のリストを見てみよう。7つぐらいあてはまればOKだよ。</p> <p>調べ学習のテーマさがしチェックリスト</p> <table border="1"><tbody><tr><td>1 <input type="checkbox"/> 気持ちがワクワクするテーマかな？</td></tr><tr><td>2 <input type="checkbox"/> 自分がやりたいことを、友だちや先生に説明できるかな？</td></tr><tr><td>3 <input type="checkbox"/> 友だちや先生のアドバイスを聞いてみたかな？</td></tr><tr><td>4 <input type="checkbox"/> 自分の力でがんばれば、なんとかできるかな？</td></tr><tr><td>5 <input type="checkbox"/> 長い時間かけて、あきないで取り組めそうかな？</td></tr><tr><td>6 <input type="checkbox"/> いろいろな調べ方ができそうなテーマかな？</td></tr><tr><td>7 <input type="checkbox"/> 何かをつくったり、活動ができるかな？</td></tr><tr><td>8 <input type="checkbox"/> どんな資料があるか、どうやって調べるか予想ができる？</td></tr><tr><td>9 <input type="checkbox"/> 調べたことを、発表したくなるテーマかな？</td></tr><tr><td>10 <input type="checkbox"/> まとめ方や発表方法も考えることができるかな？</td></tr></tbody></table> <p>○ こんな選び方は困るよ</p> <ul style="list-style-type: none">・ どうしてこのテーマにしたのか、人に聞かれても答えられない・ 仲のよい友だちがやるから、いつしょにやっちゃえ！・ タイトルはかっこいいけど、何をするかわからない・ ちょっと調べただけで、解決しちゃった <p>ステップ2 調べてみよう！</p> <p>○ 本で調べたり、インタビューにいったり、いろいろな調べ方があるよ。インターネットでも調査できるね。きみが、調べているテーマは、どんな調べ方をすれば解決するかな？</p> <p>○ こんな調べ方があるよ！</p> <ul style="list-style-type: none">● インタビューをして調べる● 電話で調べる● インターネットをつかって調べる*ほかにも、新聞や、アンケートをとったりするのもいいね。 <p>調べ学習の3つのポイント</p> <table border="1"><tbody><tr><td>ポイント1 <input type="checkbox"/> 口知りたいことや調べたいことを見つけよう！</td></tr><tr><td>ポイント2 <input type="checkbox"/> 口見て、聞いて、調べよう！</td></tr><tr><td>ポイント3 <input type="checkbox"/> 口まとめよう、伝えよう、ふりかえろう！</td></tr></tbody></table>	1 <input type="checkbox"/> 気持ちがワクワクするテーマかな？	2 <input type="checkbox"/> 自分がやりたいことを、友だちや先生に説明できるかな？	3 <input type="checkbox"/> 友だちや先生のアドバイスを聞いてみたかな？	4 <input type="checkbox"/> 自分の力でがんばれば、なんとかできるかな？	5 <input type="checkbox"/> 長い時間かけて、あきないで取り組めそうかな？	6 <input type="checkbox"/> いろいろな調べ方ができそうなテーマかな？	7 <input type="checkbox"/> 何かをつくったり、活動ができるかな？	8 <input type="checkbox"/> どんな資料があるか、どうやって調べるか予想ができる？	9 <input type="checkbox"/> 調べたことを、発表したくなるテーマかな？	10 <input type="checkbox"/> まとめ方や発表方法も考えることができるかな？	ポイント1 <input type="checkbox"/> 口知りたいことや調べたいことを見つけよう！	ポイント2 <input type="checkbox"/> 口見て、聞いて、調べよう！	ポイント3 <input type="checkbox"/> 口まとめよう、伝えよう、ふりかえろう！	<p>ステップ3 まとめよう！</p> <p>○ これまできみが調べたことや発見したことを、わかりやすくまとめて、発表しよう！ まとめ方や発表のしかたもいろいろあるけど、きみが調べたテーマにあったまとめ方の方法を考えよう！</p> <p>調べ学習のまとめ方の4つのポイント</p> <table border="1"><tbody><tr><td>ポイント1 <input type="checkbox"/> 口まず「どうしてこのテーマを選んだのか」という理由を書いておこう！</td></tr><tr><td>ポイント2 <input type="checkbox"/> 口集めた資料・情報の中から、必要な情報だけを選ぶ！</td></tr><tr><td>ポイント3 <input type="checkbox"/> 口調べた結果や、わかったことを書く。自分の意見や感想も忘れずに！</td></tr><tr><td>ポイント4 <input type="checkbox"/> 口発表の時、わかりやすく、見やすいように、図やグラフ、写真などで工夫しよう！</td></tr></tbody></table> <p>ステップ4 発表しよう！</p> <p>○ 調べたことをまとめたら、発表しよう！ ポスターにまとめて説明したり、劇や紙芝居にしたり・・・ きみが調べた内容にピッタリの発表方法考えよう！</p> <p>調べ学習の発表の6つのポイント</p> <table border="1"><tbody><tr><td>ポイント1 <input type="checkbox"/> 口いちばん効果のある発表の方法を考えよう！</td></tr><tr><td>ポイント2 <input type="checkbox"/> 口発表用の原稿を用意しよう！</td></tr><tr><td>ポイント3 <input type="checkbox"/> 口発表の時の、グループでの役割分担をしよう！</td></tr><tr><td>ポイント4 <input type="checkbox"/> 口質問があつてもあわてないように、質問を予想して答えを用意しよう！</td></tr><tr><td>ポイント5 <input type="checkbox"/> 口発表は、大きな声で、はっきりと、音を上げて、話すようにしよう！</td></tr><tr><td>ポイント6 <input type="checkbox"/> 口用意した資料や原稿を、どうやって説明するか考えて、練習しておこう！</td></tr></tbody></table> <p>ステップ5 学習をふりかえろう！</p> <p>○ これまでの学習をふりかえり、よかったことや工夫したことはどんなことかな？ うまくいかなかったことや、失敗したことはあるかな？失敗したことは、なぜそうなったか確かめて、つぎの学習にいかそう！</p> <p>調べ学習のふりかえりの3つのポイント</p> <table border="1"><tbody><tr><td>ポイント1 <input type="checkbox"/> 口学習につかったノートやメモ、ファイルみてふりかえろう！</td></tr><tr><td>ポイント2 <input type="checkbox"/> 口発表会などでの先生や友だちの意見を整理しよう！</td></tr><tr><td>ポイント3 <input type="checkbox"/> 口友だちの取り組みや発表を聞いて、参考にしよう！</td></tr></tbody></table>	ポイント1 <input type="checkbox"/> 口まず「どうしてこのテーマを選んだのか」という理由を書いておこう！	ポイント2 <input type="checkbox"/> 口集めた資料・情報の中から、必要な情報だけを選ぶ！	ポイント3 <input type="checkbox"/> 口調べた結果や、わかったことを書く。自分の意見や感想も忘れずに！	ポイント4 <input type="checkbox"/> 口発表の時、わかりやすく、見やすいように、図やグラフ、写真などで工夫しよう！	ポイント1 <input type="checkbox"/> 口いちばん効果のある発表の方法を考えよう！	ポイント2 <input type="checkbox"/> 口発表用の原稿を用意しよう！	ポイント3 <input type="checkbox"/> 口発表の時の、グループでの役割分担をしよう！	ポイント4 <input type="checkbox"/> 口質問があつてもあわてないように、質問を予想して答えを用意しよう！	ポイント5 <input type="checkbox"/> 口発表は、大きな声で、はっきりと、音を上げて、話すようにしよう！	ポイント6 <input type="checkbox"/> 口用意した資料や原稿を、どうやって説明するか考えて、練習しておこう！	ポイント1 <input type="checkbox"/> 口学習につかったノートやメモ、ファイルみてふりかえろう！	ポイント2 <input type="checkbox"/> 口発表会などでの先生や友だちの意見を整理しよう！	ポイント3 <input type="checkbox"/> 口友だちの取り組みや発表を聞いて、参考にしよう！
1 <input type="checkbox"/> 気持ちがワクワクするテーマかな？																											
2 <input type="checkbox"/> 自分がやりたいことを、友だちや先生に説明できるかな？																											
3 <input type="checkbox"/> 友だちや先生のアドバイスを聞いてみたかな？																											
4 <input type="checkbox"/> 自分の力でがんばれば、なんとかできるかな？																											
5 <input type="checkbox"/> 長い時間かけて、あきないで取り組めそうかな？																											
6 <input type="checkbox"/> いろいろな調べ方ができそうなテーマかな？																											
7 <input type="checkbox"/> 何かをつくったり、活動ができるかな？																											
8 <input type="checkbox"/> どんな資料があるか、どうやって調べるか予想ができる？																											
9 <input type="checkbox"/> 調べたことを、発表したくなるテーマかな？																											
10 <input type="checkbox"/> まとめ方や発表方法も考えることができるかな？																											
ポイント1 <input type="checkbox"/> 口知りたいことや調べたいことを見つけよう！																											
ポイント2 <input type="checkbox"/> 口見て、聞いて、調べよう！																											
ポイント3 <input type="checkbox"/> 口まとめよう、伝えよう、ふりかえろう！																											
ポイント1 <input type="checkbox"/> 口まず「どうしてこのテーマを選んだのか」という理由を書いておこう！																											
ポイント2 <input type="checkbox"/> 口集めた資料・情報の中から、必要な情報だけを選ぶ！																											
ポイント3 <input type="checkbox"/> 口調べた結果や、わかったことを書く。自分の意見や感想も忘れずに！																											
ポイント4 <input type="checkbox"/> 口発表の時、わかりやすく、見やすいように、図やグラフ、写真などで工夫しよう！																											
ポイント1 <input type="checkbox"/> 口いちばん効果のある発表の方法を考えよう！																											
ポイント2 <input type="checkbox"/> 口発表用の原稿を用意しよう！																											
ポイント3 <input type="checkbox"/> 口発表の時の、グループでの役割分担をしよう！																											
ポイント4 <input type="checkbox"/> 口質問があつてもあわてないように、質問を予想して答えを用意しよう！																											
ポイント5 <input type="checkbox"/> 口発表は、大きな声で、はっきりと、音を上げて、話すようにしよう！																											
ポイント6 <input type="checkbox"/> 口用意した資料や原稿を、どうやって説明するか考えて、練習しておこう！																											
ポイント1 <input type="checkbox"/> 口学習につかったノートやメモ、ファイルみてふりかえろう！																											
ポイント2 <input type="checkbox"/> 口発表会などでの先生や友だちの意見を整理しよう！																											
ポイント3 <input type="checkbox"/> 口友だちの取り組みや発表を聞いて、参考にしよう！																											

(2) 課題設定のしかたについて

教師は生徒が自ら課題を設定できるよう教材の提示、声かけなどの働きかけを行い、ふだんから常に生徒の問題意識をかきたてる授業展開を心がけることが大切になってくる。

適切な課題として、次の要点をふまえ、設定していくことが大事である。

- ① 生徒の主体的な学習をうながすもの。
- ② 生徒の社会的事象に対する関心を高めることができるもの。
- ③ 生徒の発達段階や学校の所在地域の特性に配慮したもの。
- ④ 生徒自らが企画し、調査し、まとめるなど学習活動が組織しやすいもの。
- ⑤ 資料を選択し活用する学習や、作業的、体験的な学習ができるもの。

次に課題設定については、生徒自身が興味をもったものから設定することが一番望ましいが、生徒が興味をもつたものであれば何でもいいというわけではない。その課題が追究する価値のあるものでなくてはならない。そのような追究する価値のあるものを課題として設定できるように教師は指導、助言をしなければならない。

(3) 課題の調べ方について

① 調べ学習の方法を身につけさせる

どのような手順で学習を進めるのか学習の方法を身に付けさせる。このことは、生徒が主体的に学習を進めていくために必要である。そのため学習の手引きを活用する。

調べ方の方法としては、次の要点があげられる。

- ① 課題に関する専門の方や関係者にインタビューをして調べさせる。
- ② 電話で関係各所に連絡を取り、直接に訪問して調べさせる。
- ③ 手紙やファックスを使って関係各所に連絡して調べさせる。
- ④ 本・雑誌を使って調べさせる。(図書館の事典、新聞の縮小版なども利用できる。)
- ⑤ インターネットを利用して調べさせる。
- ⑥ 収集した資料・情報の中から必要な情報を選ぶ。

特に①②③については電話での対応のしかたアポイントの取り方、手紙の書き方、現地での行動、言動の注意点など事前の指導が必要である。

② 資料や図書館をうまく利用する力を身につけさせる

調べ学習では、図書館を利用するが一般的である。しかし、図書館で「調べなさい」と急に言われても生徒は戸惑ってしまい調べることはできない。どんな資料がどこにあるのか、どのようにその資料を活用するのかなど具体的に活用方法などを指導しておかないと、無駄に図書館での時間を過ごしてしまう。そこで、「図書館の仕組み」を最初に指導する。どこにどのような本が並んでいるのか、本の構成、図書館についているラベルの意味や読み方などを指導する。その次に、「目次や索引の見方」を指導する。目的とする資料に行き着くために目次の構成とその見方、索引の意味と活用の仕方などについて指導することは特に重要である。

また、図書館司書と連携して、生徒が「探しやすく借りやすい」図書館にするための方法を工夫する必要がある。図書館司書に前もって、どのような内容の調べ学習をするのか、そのためにどのような本や資料が必要なのかを知らせ、揃えてもらう。その上で、生徒が調べることができるよう 「関係する本のコーナー」を設ける。こうすることで生徒は、必要な本に出会うことができ、ヤル気が出る。

(4) 課題のまとめ方について

課題のまとめ方を身に付けさせるために次のようなことがあげられる。

① 調べた課題の設定理由を明確にまとめる。

なぜ、その課題を選んだのか、自分でなく他の生徒にもよく確認ができるようにするためである。

② 調べた結果や分かったことを書く。

調べるときに大変だったことや工夫したこと、調べる前と調べた後で自分の考えが変わったことなどをまとめると聞く側が分かりやすいからである。

③ 発表するときにどうすれば相手に分かりやすく発表できるか効果的な方法を考える。

大きな紙に記入するときの字の大きさや色ぬりなどの表現、絵や図、グラフや写真などの資料を使うと、分かりやすく発表できるからである。

以上のこと気に気を付けながらまとめるよう教師は指導する。

(5) 発表のしきたりについて

発表のしきたりを身に付けさせるために、次のことを指導しておくことが大切である。

① 発表の原稿を用意させる。

発表の時間を無駄にしないことと、要点をまとめて聞き手が分かりやすくするためである。

② 発表するときは、ただ読むのではなく、聞き手に対して語るように発表させる。

③ 調べたことだけでなく、調べて分かった意外なこと、驚き、発見、疑問などを感想として述べさせる。そうすると、聞く側は興味・関心をもって発表を聞き、自分のものにしていく。

④ 資料を読んで紹介するときは、見る側に分かりやすくするために、拡大して掲示させる。

適切な課題を設けて行う学習について(1)～(5)の内容で述べてきたが、これらについては調べ学習のため学習の手引きを作成、配布して全体で確認し、生徒が必要なときは自分でいつでも振りかえり確認できるようにさせることで、「自ら学び、自ら考える力」を育していく。

3 自己評価能力の育成について

自ら学び、自ら考える力を育てるためには、自己評価能力の育成は欠かせない。自己評価を通して、自らの学習状況をとらえ、どこをどのように改善したらよいのか理解し、それにあった工夫がなされて学習が深まっていく。その活動をくり返すことによって、自己評価能力が高まり「自ら学び、自ら考える力」が育っていく。

(1) 教師からの評価情報の提供について

評価規準を生徒に示すことで生徒は、自己評価の指標として自分のゴールや課題を自覚できる。一般的に「勉強をがんばる」と生徒が思っても、何をどのように取り組めばよいのかが分からなければやる気も出ないものである。教師の評価規準をしっかりと確認させ、生徒が取り組むべき学習のめあてを持たせる。そうすることで、その評価規準を生徒同士が互いに共有し、同じ立場で同じ学習目標に向かって質の高い学び合いがなされる。また、学習過程での教師からの適切なアドバイスをうけ、自己評価能力が高まっていき「自ら学び、自ら考える力」が育っていく。

(2) 自己評価について

自己評価能力を育成するためには、評価の目的を明確にした「自己評価カード」を活用すると効果的である。カードを作成するときの工夫としては、生徒が自分の学習の方向性を意識し学習活動のめあてを明らかにできる、学習活動後に振り返って反省することができる欄を設ける。そして、自己評価カードに自分自身の言葉による「学習のめあてー到達度の振り返りー判断の理由」を記入させる。そうすると、自分の学習の到達度、不足している部分、発展すべき点などが見えてきて今後の自分の学習の手立てとなり、自己評価能力が高まっていく。

自己評価カードの作成についての工夫する点は、次のことがあげられる。

① 生徒一人一人が自分の学習の方向を意識化し、自分の学びや活動のめあてを具体的に明らかにするような自己評価カードを考える。

② 学習の後にどの程度達成できたか振り返り、「なぜ、そう思うか」の理由を書く欄を設ける。

自己評価カード

年 組 番・氏名

1. 学習のめあて

--

2. 学習をふりかえって

自己評価	配点	自己採点
①授業のための準備（道具、家庭学習）はきちんとできましたか？	5	
②自分なりの考えで、考えられるように努力しましたか？	5	
③テーマ設定理由がはつきりのべられましたか？	5	
④テーマ（調べる内容）については、十分に調査しましたか？	5	
⑤調べた結果、どんなことがわかつたかのべられましたか？	5	
⑥調べたことから、考えたことや感想などをのべられましたか？	5	
合 計	30	

3. 他のグループからのアドバイスをうけて、今後の学習に役立てたいことなど

--

4. 先生から一言

--

(3) 相互評価について

相互評価は、自己評価能力を育成する上で重要である。お互いの学習を相互評価することは、相互評価を通した「学び合い」の場で、自分の学習として受け止めて評価、アドバイスを与え、自らも学習の内容を深めていくことにつながる。こうして、他者の学習発表を他人事として受け止めがちになるのを防ぎ、学びを共有することができる。

また、他者からの相互評価を受け、鋭い視点や質問によって自分の考え方や学習が深められ、高められ、客観的に自己評価をすることができるようになり、よりよい思考や学習活動を目指すことにつながっていく。つまり、自己評価能力は教師評価によっても高められるが、生徒同士の相互評価はそれをよりいっそう高める効果がある。

(4) ポートフォリオ評価について

ポートフォリオとは、紙ばさみ、折りかばん、作品選集などの入れ物や容器のことである。そして、その入れ物に一人一人の生徒の学習到達の成果及びそこに到達するまでの過程が分かるような資料・情報を目的的、計画的に集積したものである。学びの過程で作成された一人一人の子どものポートフォリオは「生徒自身の学びの軌跡」や「履歴」を残していく。つまり、生徒自身の「自己成長ファイル」と考えられる。そこで、ポートフォリオ評価を取り入れることで、生徒は自らの学習の軌跡を何度も振り返り、自らの学習の補充、深化するべきところ、発展できるところなど、その後の学習に生かしていくことができる。このような活動を日頃の学習活動でくり返し継続して行うことで、自己評価能力を高めることにつながる。

III 授業実践

1 単元名

(地理) 第2部 1章 身近な地域を調べよう

2 単元について

(1) 教材観

本教材は、身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めさせるとともに、豊見市の地域的特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせることができることがねらいである。身近な地域を学習することは、生徒にとって自分の生活とかけ離れたところの問題よりも自分たちの問題と捉えることができ、興味・関心がわいてきて主体的に学習に取り組むことができる。

したがって、身近な地域を学習することは、「自ら学び、自ら考える力」を育てるための教材として適している。

(2) 生徒観 (省略)

(3) 指導観

課題設定、追究、整理、発表という学習を通して、生徒に多面的多角的な思考・判断ができるような学び方を身に付けさせたい。そのために調べ学習・発表についてのスキル学習の手引きを使って課題学習についての一連の流れを身に付けさせ、課題学習が円滑に行えるよう指導する。

まず、課題設定の段階として、豊見市の地図から豊見城の土地の様子を読みとらせる。その時、地図を読みとる基本的な事項（八方位、等高線、土地利用）についてしっかりと身に付けさせる。地形図と空中写真を見比べながら地域の様子を確認し、課題になれるようなことをみんなで探し出していく。そこからグループの課題をしづらりこませて、課題を設定させる。

次に、調べる段階において、数多くある資料や本、文献などから情報を選ばせ、1つの情報や資料だけで物事を判断せず、いろいろな情報を集めた上で自分の考えをまとめていくよう指導していく。図書館の資料だけでは足りないところは、どうすれば必要な情報を得られるのかも考えながら指導、助言していかなければならない。また、まとめ、発表の段階では、課題設定の理由を述べさせる、どのような方法で発表を行うのか、発表するときの聞きやすい声と話し方、発表原稿を準備するなどについて指導しておくことが大事である。

そして、自己評価能力を育てるために、自己評価カードを活用して他の生徒の学習発表や相互評価を基に客観的に自己評価を行わせ、さらにポートフォリオ評価を行い自分が学習した内容のレポートやワークシートなどをファイルにつづらせ、必要なときに振り返って学習を確認させていく。こうして、自己評価能力を高め「自ら学び、自ら考える力」を育っていく。

3 単元の観点別目標

○社会的事象への関心 意欲・態度	① 身近な地域（豊見城市）に対する関心が高まっている。 ② 身近な地域（豊見城市）の地理的事象から見出した課題を基に地域の特色をとらえ、諸事象の観察や調査などに意欲的に取り組んでいる。
○社会的な思考・判断	① 身近な地域（豊見城市）の地理的事象を基にして適切な課題を設定することができる。
○資料活用の技能・表現	① 身近な地域の特色をとらえるために地図記号（土地利用、建物、施設、道路、境界など）についての情報を適切に活用することができる。 ② 身近な地域の特色をとらえるため、新旧の地図を比較し地域の変化や特色を読み取ることができる。
○社会的事象について の知識・理解	① 縮尺と等高線についての意味を正しく理解している。 ② 地図記号（土地利用、建物、施設、道路、境界など）を正しく理解している。 ③ 豊見市の地域的な特色を景観や縮尺の大きな地図などに着目してとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を理解し、その知識を身に付けている。

4 単元の指導計画と評価計画

次 (時)	学習内容	主な学習活動	基礎・基本的事項	指導方法 (教師の活動・その他)	評価の計画 ()評価の方法
1 (1)	・身近な地域の課題学習についてのオリエンテーション	・身近な地域の調査活動についてのレジュメで、調査活動について学習する。	・地域を調べる手順 ①資料の収集 ②課題の設定、考察 ③調べた結果の整理 ④まとめと発表	・身近な地域の調査活動についての説明。 ・課題を自分たちで設定していくことを念頭において、説明、指導を進めていく。 ・教師の評価情報の提供	<関心・意欲・態度> ・身近な地域の調査活動について意欲的に取り組もうとしている。 (観察・レジュメ)
2 (1)	・地図から見た豊見城市	・地形図や空中写真を見比べて地域のことについて理解する。 ・地図記号について理解する。	・地形図や空中写真を読みとることができます。 ・地形図から土地利用の様子が分かる。	・行政が作成した市のマップ図は、施設、伝統文化、文化財などが記載されているので、それを地形図と照らし合わせながら市の特徴を捉えさせるようにする。	<知識・理解> ・地図記号を正しく理解し、土地利用や建物、施設など地図記号を使って表すことができる。 ・縮尺と等高線についての意味を正しく理解している。 (観察・ワークシート)
3 (1)	・ウェビング ・課題設定 ・設定した課題について報告する	・野外観察や空中写真、地形図の比較などを通じて、市の中で、興味や関心があるところ、疑問があるところ、関連のあるところなどを出し合い調査する課題を設定していく。 ・各グループの設定した課題についてグループの代表が発表する。	・野外観察や空中写真、地形図の比較から課題を見つけ出し、課題を設定できる。	・豊見城市のことについて、できるだけ多くの事象を出させるようにする。 ・歴史、文化、文化財、産業、自然など多くの事象が出せるようにする。 ・数多く出した事象の中から、課題を絞って、決定するようにアドバイスする。 ・設定した課題がグループごとで重ならないように配慮する。 ・各グループが設定した課題を確認する。	<思考・判断> ・豊見城市の地理的事象を基にして、課題を設定することができる。 (グループの課題設定用のワークシート)
4 (3)	・豊見城市について調べよう	・設定した課題を基に、図書館で豊見城市、またそれに関連する文献資料、統計資料で資料の収集、調べをする。 ・収集した資料や調べた内容を整理し、まとめる。 ・調べた資料などを失わないようにそれぞれのファイルにつづらせ、進み具合を確認する。	・文献資料や統計資料などで具体的に調べることができる。	・豊見城市、またはそれに関連する文献資料、統計資料から、必要な資料などを整理し、まとめさせる。 ・生徒同士で調べ活動をする場合、安全面に十分に気をつけて行うことを指導する。	<資料活用の技能・表現> ・豊見城市的特徴をとらえるために、関連する文献資料、統計資料、地図などから必要な情報を適切に選択して活用していく。 (観察・ポートフォリオ)
5 (2)	・調査レポートをまとめよう	・これまでに収集した情報や資料から必要なものを選択し、まとめる。 ・どんな方法で発表したらよいのかを考えながらまとめる。 ・収集した情報や資料を各自のファイルにつづり、独自のファイルができていることを確認させる。	・豊見城市的特徴を追究し、考察した過程や結果を地図化したり、報告書にまとめたりする。 ・効果的な発表の方法を考えてまとめる。	・効果的な資料の選択、利用ができるようにアドバイスをする。	<資料活用の技能・表現> ・市の特徴を追究し考察した過程や結果を地図化したり、報告書にまとめることができる。 (観察・ポートフォリオ)
6 (2) 本時	・調べたことを発表しよう ・相互評価 ・自己評価	・各グループが設定して調べた課題についての発表を聞く。 ・他のグループの発表した内容を評価し、相互評価カードに記入して渡す。 ・自分たちの発表した内容や態度について、他のグループからの評価も基にして振りかえりワークシートに記入し、ファイルにつづる。	・豊見城市的地域的特徴をとらえ、地理的なまとめ方や発表の方法を身に付ける。	・発表するときは、聞く側の立場に立って、大きな声ではっきりと発表できるように指導する。 ・聞く側も発表する人の気持ちを考えて、静かに聞くように指導する。	<技能・表現> ・豊見城市的特色を調べえた結果を報告書などにまとめ、発表することができる。 <自己評価> ・他のグループからの相互評価を基に客観的に自己評価ができる

5 本時の学習

(1) 本時のねらい

○豊見城市的特色的を調べた資料を基に報告書にまとめ、発表することができる。

<技能・表現>

(2) 本時の授業仮説

○発表の視点にそった報告書を基に豊見城市的特色的を発表させれば、発表するが身に付くであろう。

○他のグループからの相互評価を基に自己評価を行えば、より客観的になり自己評価能力が養われていくであろう。

(3) 展開（8/9）

時	学習活動	指導上の留意点・教師の支援	<>評価の観点 () 評価方法
導入 5分	・各グループの設定した課題を確認する。 ・発表時の注意点を確認する。	・各グループの発表の内容を確認することで、興味・関心と自覚をうながす。	
展開 35分	・グループの発表をする。 声の大きさ、持ち時間（約10分）、調査内容、自分たちの考えなどをしっかりと発表できるようにする。 ・発表をした後、質問や意見を受け、それに答える。 ・他の質問や意見が出ないことを確認して発表を終える。 ・発表を聞いての感想や評価を各自の評価カードにまとめる。 ・各グループの班長はグループの意見をまとめて、カードにまとめてそのグループに渡す。	・発表時の注意点をふまえて、自主的に行動できるように声かけをする。 ・他のグループの生徒から質問や意見が出るようにうながす。 ・発表されたことを評価し、まとめることで学びを共有化できるようにするために、少しでも自分の考え方で記入するようにアドバイスしながら、机間巡視する。	<技能・表現> ・豊見城市的特色的を調べた資料を基に報告書にまとめ、発表することができる。 (観察・相互評価カード)
まとめ 10分	・他のグループが評価したカードを受け取り、グループの自己評価をする。	・他のグループの評価を受けて、自分たちの発表の内容をふりかえり、自己評価をする。 ・次の時間に発表するグループは本時の発表を聞いて、次の発表の準備をする。	<自己評価> ・相互評価を基に客観的に自己評価を行う。 (観察・自己評価カード)

6 検証授業の考察

生徒のアンケートの中から、次のような意見があがった。

- ・大きな声で説明ができるようになった。
- ・発表するときは、顔を上にあげて大きな声で話すことが大事。
- ・発表はうまくなかった（質問にすぐ答えられなかった）けど、発表を最後までやれてよかったです。
- ・発表の時、作文用紙にメモして発表しているグループがあった。自分の時もそうしたい。
- ・表やグラフにして、地図を利用して分かりやすく発表しているグループがあった。次の発表の時は自分たちもそうしたい。
- ・小さい資料を拡大したり、マーカーで見やすくしたり、文字をうまく書いたりしてわかりやすく発表できるようにした。
- ・うまく説明して、質問にもたくさん答えているところはあったけど、感想を言うのを忘れているグループがあったから、自分たちは気をつけたい。

(1) 発表の力がついたか

発表の視点にそって発表活動を行えば、発表する力が高まってきていることがこの感想からもうかがえる。発表するときに気を付けなくてはならない点として、顔を上げて大きな声で話す、発表原稿を準備するという点に気づいている。また、うまく発表できなかった（質問にすぐ答えられなかった）という反省もあるが、最後までやり遂げた達成感と次の学習への意欲が見られた。以上のことから、発表能力が育ってきているといえる。

(2) 自己評価能力は高まったか

自己評価活動に関しては、次のような意見があがった。

- ・他のグループのアドバイスを聞いたりして、次の発表に活用しようと思った。
- ・他のグループの発表を聞いて自分のグループのよいところ、少し足りないところが分かってきた。
- ・自分たちはうまく発表できなかったけど、他のグループからよかったですと言われて、うれしかった。

このように、評価カード（自己評価・相互評価）を活用することで、他のグループからのアドバイスや、良いところを受け止めて、客観的に自己評価し、今後の学習の目標をもてるようになってきている。このことから、自己評価能力が養われてきたことが分かる。今後も、このような自己評価活動を行い、自己評価能力を高めれば、生徒の「自ら学び・自ら考える力」を育てていくことにつながる。

IV 研究の考察

仮説

- 1 適切な課題を設けて行う学習を取り入れ、その学習過程において、課題の設定のしかた、追究、整理、発表のしかたを身に付けさせることで、「自ら学び、自ら考える力」を育てることができるだろう。
- 2 教師からの評価情報の提供や自己評価・相互評価、ポートフォリオ評価を活用することで自己評価能力が養われ、「自ら学び・自ら考える力」を育てることができるだろう。

「身近な地域を調べよう」の単元終了後のアンケートから次のような意見があがった。

仮説1について

 よくできた  まあまあできた  あまりできなかつた  できなかつた

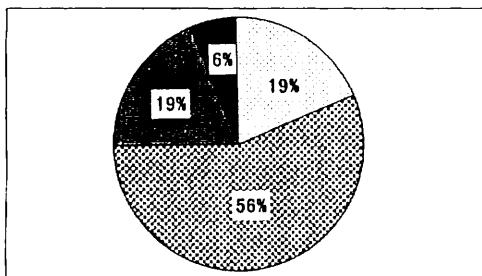


図1 課題設定ができるようになりましたか

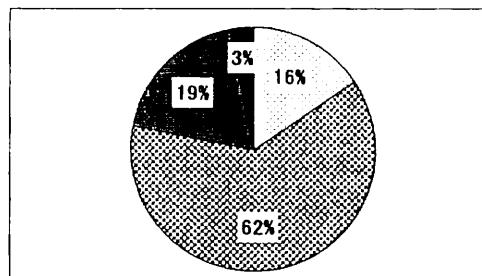


図2 調べ方ができるようになりましたか

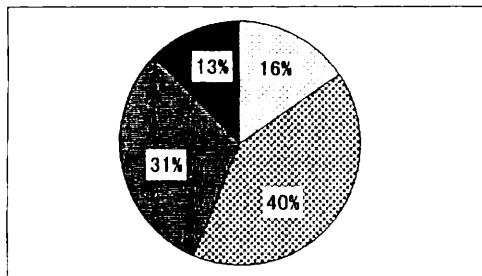


図3 調べたことをまとめることができますか
ようになりましたか

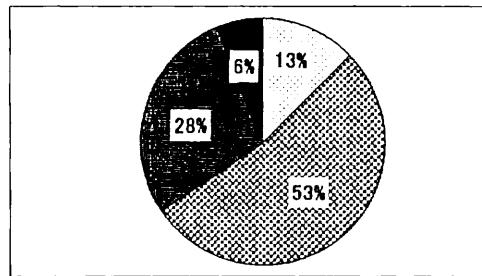


図4 発表ができるようになりましたか

① 課題を設定していく力がついたか

図1から、よくできた(19%)、まあまあできた(56%)を合計するとクラスの75%の生徒が課題設定をすることができたと答えている。

これは、まず、生徒が自ら課題を設定できるように、豊見城市の地形図、市政マップ、統計資料などを利用してウェビングを行い、課題設定させたことがこのような結果につながった。

しかし、残り(25%)の生徒があまりできなかつたと答えた要因は、グループで十分に話し合う時間が取れなくて一人一人の意見をうまく反映した課題設定ができなかつたことがあげられる。

② 課題を追究する力が育ったか

図2から、よくできた(16%)、まあまあできた(62%)を合計するとクラスの78%の生徒が課題を追究することができたと答えている。これは、課題を追究する力を付けるために学習の手引きを作成し、それを基に調べ方のスキル学習を行つたこと、司書教諭と連携して豊見城市のコーナーを設け、生徒が調べやすいように資料を揃えたことが要因である。

しかし、残り(21%)の生徒があまりできなかつたと答えた要因は、資料活用能力、調べるための時間不足、経験不足と、教師の支援が一人一人に十分に行き届かなかつたことがあげられる。

③ 調べたことをまとめる力や発表する力が育ってきたか

図3から、あまりできなかつた(31%)、できなかつた(13%)を合計するとクラスの44%の生徒がまとめることができなかつたと答えている。次に、図4から、あまりできなかつた(28%)、できなかつた(6%)を合計するとクラスの34%の生徒がうまく発表ができなかつたと答えている。

以上の結果から、まとめる力について、約半分の生徒ができなかつたと答えた要因は、資料をうまく活用して調べることができず、まとめるのに時間がかかったこと、中学ではじめての調べ学習なので経験不足だったことがあげられる。また、発表する力について、約3割の生徒ができなかつたと答えた要因は、調べるのに手間取って、まとめの時間が不足したこと、発表のリハーサルが不十分だったことがあげられる。

仮説2について

① 自己評価能力は高まったか

図5から、よくできた(19%)、まあまあできた(56%)を合計するとクラスの75%の生徒は自己評価ができるようになってきていると答えた。これは、自己評価能力を高めるために、4つの視点から評価活動の工夫を行つたことが要因である。生徒は、他のグループからのアドバイスをうけて自己評価をし、今後の学習にいかそうと努力しようとしていた。また、ポートフォリオ評価の活用で、授業で使つたプリントや学習の手引きなどをファイルに綴ることで学習を振り返り確認することで自己評価能力を高めてきた。しかし、残り(25%)の生徒ができるようになったと言えないのは、経験不足、教師の説明不足が考えられる。

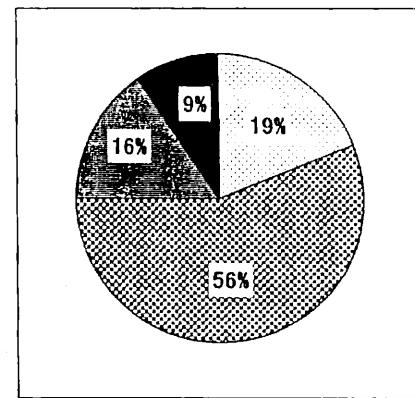


図5 自己評価ができましたか

V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 学び方を身につけさせ、自ら学び、自ら考える力を育むことができた。
- (2) 評価活動の工夫によって、自己評価能力を高めることができた。

2 今後の課題

- (1) 資料活用能力を育成するための指導・支援の向上を図る。
- (2) 自己評価能力をさらに高めるために、自己評価活動をくり返し行い、継続していく。

<主な参考文献>

高山博之 川崎英一編著	『新しい学力観に立つ 中学校社会科授業の改善』	明治図書	1994年
寺西和子著	『確かな力を育てるポートフォリオ評価の方法と実践』	黎明書房	2003年
岩下修著	『心を育てる学級経営10月号 調べ学習のための「読書の活用力」を高める』	明治図書	2003年
北俊夫・安野功編著	『小学校社会科 基礎・基本と学習指導の実際』	東洋館出版社	2002年